

[学術論文]

# ドイツ語のオノマトペに関する一考察

——音韻特徴と意味特徴を中心に——

Zur Onomatopöie in der deutschen Sprache

—Phonologische und semantische Merkmale der deutschen Onomatopöie—

村 元 麻 衣

Mai MURAMOTO

---

*Studies in Humanities and Cultures*

---

No. 6

名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』抜刷 6号

2006年12月

GRADUATE SCHOOL OF HUMANITIES AND SOCIAL SCIENCES

NAGOYA CITY UNIVERSITY

NAGOYA JAPAN

DECEMBER 2006

[学術論文]

## ドイツ語のオノマトペに関する一考察

——音韻特徴と意味特徴を中心に——

### Zur Onomatopöie in der deutschen Sprache -Phonologische und semantische Merkmale der deutschen Onomatopöie-

村元麻衣  
Mai Muramoto

**要旨** 本論文ではまず1章で、日本語とドイツ語におけるオノマトペの定義を検討した上で、オノマトペの定義をさだめる。2章では、ドイツ語の3つの辞典上でのオノマトペの記述を比較考察した後、ドイツ語のオノマトペの動詞・名詞・副詞といった品詞による分類と、子音に着目した音韻形態の分析を行う。さらに音と意味との関係を考察し、ドイツ語のオノマトペの特徴を探る。3章では、日本の文学作品のオノマトペとそのドイツ語翻訳版との比較、ドイツの文学作品のオノマトペとその日本語翻訳版との比較をし、それぞれの現れ方からドイツ語のオノマトペの表現法と特徴を考察する。4章では、ドイツ語のオノマトペの変遷と発展にふれ、この研究のまとめとした。日本語のオノマトペは擬音語・擬態語を指すのに対し、ドイツ語のオノマトペは主に擬音語に焦点が当てられている。ただし、例えば日本語のオノマトペ「バタバタ」のように、鳥が羽ばたく際に出る音としての「バタバタ」と、鳥が羽ばたく様を描写した「バタバタ」のような、両者にまたがるものもあり、ドイツ語のオノマトペも同様に擬音語と擬態語との区別がつきにくいものがある。また日本語のオノマトペは副詞が多く、「バタバタ」のように同じ音が二回あるいは三回重複した形で構成されているものが多いため見分けがつきやすいが、ドイツ語のオノマトペは動詞が多く、ある音あるいは様態を模写する働きの擬音・擬態の部分、つまり「音の響き」が、「quatschen (ベチャベチャしゃべる)」のように語全体に溶け込み一語となっているため、オノマトペとしての区別がつきにくいのである。本論文ではこの相違を、それぞれの「オノマトペ性」とし、分析を試みた。

**キーワード** : 日独オノマトペの定義、音の響き、オノマトペ性

## 目次

### 0. はじめに

1. オノマトペの定義
2. 辞典に見るオノマトペ
3. 文学作品に見るオノマトペ 一日独表現比較
4. ドイツ語のオノマトペの変遷
5. おわりに

## 文献

資料 1、2、3

### 0. はじめに

ある外国語を学ぶとき、その外国語の何を難しいと感じるのであるだろうか。文法、発音、その言語特有の語彙、そしてその用いられ方など、難しい要因は様々である。では、日本語を外国語として学ぶ人々にとって難しい部分とは、日本語のどこにあるのであろうか。ラテン文字を使用する学習者には、漢字が難しいかもしれない。発音や読み方を難しいと感じる人もいるだろう。あるいは「お疲れ様」といった他の言語には訳しにくい言い回しを難しいと感じる人もいるだろう。難しいとされる要素は様々であるが、本論文では、その中のひとつとして、オノマトペに焦点を当てる。なおドイツ語のオノマトペは、漫画で多く用いられているが、ほとんどが間投詞であり、またこの研究の指標とする„Duden 10 Bände auf CD-Rom“ (2005) に記載されていない語が多いため、本論文では漫画は対象からはずす<sup>1</sup>。

### 1. オノマトペの定義

まずオノマトペという表現であるが、これは「フランス語のonomatopéeから借用した外来語であり(中略)『命名する』というギリシャ語onomatopoiia (onoma「名前」+ poiein「作ること」)に由来」(田守(2003) P.4)するものであり「言葉を作ること」(飯島(2004) P.28)という意味である。これは日本語に限らず、ドイツ語でも同じである<sup>2</sup>。

#### 1-1. 日本語のオノマトペ

先にオノマトペという表現の由来について述べたが、ここでは日本語のオノマトペの概念を扱う。日本語で言うオノマトペは、「動物の鳴き声や人間の声を模写してつくられた『わんわん(鳴く)』や『げらげら(笑う)』といった擬声語と、自然界の物音を真似てつくられた『どんどん(戸を叩く)』や『ごろごろ(雷が鳴る)』といった擬音語などを指す。しかし、音響とは直接

<sup>1</sup> „Lexikon der Onomatopöien -Die lautimitierenden Wörter im Comic-“のAの項目の語: Aa, Ah, Ahh, Aaaa, Aaah, Aaaaaaaa... Äh, Aba, Ach, Ächz, Ack, Adab, Adada, Aaeece, Aaeiii, Agg, Agh, Agk, Agrr, Aha, Ahahaha, Ahaa-Tschie, Ahaudh, Ahem, Ähemmm, Aho, Ahoi, Ahua hua hua.....P.51.

<sup>2</sup> Wikipedia „<http://de.wikipedia.org/wiki/Onomatopoesie>“参照。

関係しない『べとべと（くつつく）』『にこにこ（笑う）』『ずきずき（痛む）』『むかむか（する）』といった事物の状態、動作、痛みの感覚、人間の心理状態などを象徴的に表した擬態語も含めて考えるのが普通である」（田守（2003）P.5）とも言われる。つまり擬音語は「音や声」、擬態語は「様子や心情」を表現するものである。

### 1-2. ドイツ語のオノマトペ

次にドイツ語でのオノマトペの定義であるが、これは「Klangmalerei, Lautmalerei, Lautnachahmung, Schallnachahmung<sup>3</sup>などともいう。狭義には語の指示対象が直接自然界の音や声、つまり聴覚的に結びついている場合を指すが、広義には指示対象が視覚、味覚、聴覚、触覚などによって捉えられるもので、それが共感覚<sup>4</sup>によって直接的に音に結び付けられた場合も含まれる。」（川島編（1994）P.672）とあり、また„Das Onomatopoeikum ist ein lautmalendes Wort und dient primär der Nachahmung von Lauten bzw. Schallereignissen vielerlei Art. (オノマトペとは擬音（擬声）語のことであり、主として様々な声や音の生起の模写に使われる)“（Duden: Band 4. Die Grammatik（2005）P.606）と定義される。川島編（1994）にある定義は、前節の日本語のオノマトペの定義とほぼ同じと言えるが、Duden（2005）にある定義には、擬態語に関する記述がない。

### 1-3. 本論文でのオノマトペの定義

以上から、本論ではまず、浅野編（1981）『擬音語・擬態語辞典』と、山口編（2003）『暮らしのことば 擬音・擬態語辞典』に記載されている語を、日本語のオノマトペとして扱うことにする。次にドイツ語のオノマトペの場合には、上述の定義にあるKlang-, Laut-, Schall-から推察できるように、「音」を中心としたものに限定されているようである。しかし、川島編（1994）のオノマトペの項目には、「擬音語、擬声語」という訳があり、それとは別のBildwortの項目に、「造語（擬態詞、絵ことば）」という訳がある。この「造語」の項目には、例として擬態語である「watscheln（アヒルなどがよたよた歩く）、flattern（羽のあるものがひらひら飛ぶ）」（川島（1994）P.133）が挙げられていることから、定義上の混乱が見られる。つまり川島編（1994）では、擬態語flatternはオノマトペに含まれないことになり、「視覚によって捉えられるものも含む（上参照）」という定義に矛盾しているのである。またドイツ語は、オノマトペ辞典というものの自体が存在せず<sup>5</sup>、一般の辞典では、オノマトペとしての記載が辞典により相違して

<sup>3</sup> 4語とも「擬音語・擬態語」の意。

<sup>4</sup> 「臭覚、視覚、聴覚、味覚および触覚のうちの1つの興奮が同時に他の感覚を興奮させ、その結果『色を聴く』あるいは『音を見る』といったような現象を引き起こすこと。例：ある声が『柔らかい（触覚）』『温かい（温感覚）』といった表現。」（川島（1994）P.982）

<sup>5</sup> コミック・オノマトペ辞典は除く。

いる<sup>6</sup>か、あるいは皆無である<sup>7</sup>。このような各辞典の不統一性を考慮し、本論ではすでに存在が確定されているオノマトペの動詞から、その名詞や副詞などに派生する語（例：bimmeln（鐘などがリンリン鳴る）→Bimmel（鐘），bim（鐘などの音・キン、チン）（Deutsches Wörterbuch（1992））、あるいは名詞や副詞などから動詞に派生する語（例：Jammer（嘆き）→jammern（嘆き悲しむ），jämmerlich（嘆かわしい）（同書））、また同意語や同系語などとして記載のある語<sup>8</sup>をオノマトペとして扱うに留める。また本論の指標として、„Duden 10 Bände auf CD-Rom“（2005）上（以下„Duden CD-Rom“と略す）にlautmalend（擬音・擬声語の）という記載のある語を、ドイツ語のオノマトペとして扱うことにする。

## 2. 辞典に見るオノマトペ

この章では、ドイツ語の3つの辞典上でのオノマトペの記載を比較分析するが、その前にまずオノマトペの語数についてふれておく。日本語のオノマトペの数は、少なくとも「2200」（湯澤（2004）P. 25）あると言われており、「最もオノマトペが豊富な言語」（同書）と言われる韓国語では、「約8000語」（同書）、英語では「約1500」（下宮（2001）P. 46）と言われる。それに対してドイツ語のオノマトペでは„Duden CD-Rom“の記載数が541語に留まっている<sup>9</sup>。

表1：オノマトペの数の比較

|                |      |
|----------------|------|
| 韓国語            | 8000 |
| 日本語            | 2200 |
| 英語             | 1500 |
| ドイツ語（Dudenによる） | 541  |

### 2-1. „Duden10 Bände auf CD-Rom“上のオノマトペと他の辞典での記載について

この節では、上述の„Duden CD-Rom“に記載されているオノマトペ541語を基準にし、他の辞典„Deutsches Wörterbuch“（1992）（以下„DW“と略す）と„Wahrig Deutsches Wörterbuch“（1997）（以下„Wahrig“と略す）での記述との比較を行ったが、その表は紙幅の関係上割愛する。まず、後者の2つの辞典には、lautmalend（擬音・擬声語の）という記載以外に、オノマトペの範疇に含ま

<sup>6</sup> オノマトペとしての表示例：lautmalend, Schallwort, Kindersprache（小児語），lärmend（音を立てながら），Nachahmung des...（～の模写），laut...（声・音を立てて～）。

<sup>7</sup> 例：tippen（トントン叩く）は„Duden 10 Bände auf CD-Rom“（2005）や国松編（2000）『独和大辞典』ではオノマトペとされているが„Deutsches Wörterbuch“（1992）や„Wahrig Deutsches Wörterbuch“（1997）では、オノマトペに関する記述がない。

<sup>8</sup> 例：„Deutsches Wörterbuch“（1992）では、sprechen（話す）はオノマトペとされていないが、その同系語として記載されているknistern（パチパチ音を立てる）は、オノマトペとの記述がある。

<sup>9</sup> lautmalendという記述のあるもののみ。

れると思われる記載がいくつか見られる。それをlautmalendの下位範疇とし、分類した。次に挙げるものは、下位範疇のうちlautmalendと同じ範疇に属する、としたものである。

lautnachahmend (lautmalendとほぼ同意) / Nachahmung von... (～の模写) / Schallwort (擬音語) / Schallwurzel (音を語源とするもの) / Kindersprache (小児語) / Lautliche Nachbildung von... (～を音として模写したもの)

また、該当する語の記載欄に、語源上の参考あるいは関連語として別の語が挙げられ、その語がオノマトペの場合<sup>10</sup>もこれと同じ範疇とする。さらに、挙げられている関連語にオノマトペとしての記載がなくても、その語の関連語として挙げられているまた別の語が、オノマトペである場合<sup>11</sup>も同じ範疇とする。

次に挙げるものは、下位範疇のうちオノマトペの範疇に含まれるかどうか疑問のあるものである。

lärmend ... (音を立てながら～) / Lärm (音) / Geräusch (物音)

オノマトペとは「音そのもの」「動きそのもの」「様態そのもの」を具体的に表すものであり、「音という意味」「ある動きという意味」「ある様態という意味」を抽象的に表すものではないと考えられるが、このLärmやGeräuschは「<ある音>という意味」と、「その音そのものを表示するもの」との中間に位置している。つまりこれらは、具体的表現と抽象的表現の中間に位置していると考えられる。lärmendの場合も同じように、音を立てながら何かをしているわけであるが、これは「音を立てながら～」という、より抽象的な描写に過ぎないのか、あるいは、その音を具体的に擬音化しているものなのか、という疑問が残る。そして次の記述に関しては、オノマトペの範疇に含めないことにする。

lärmern (音を立てる) / laut ... (声・音を立てて～) / Laut geben (音を立てる) / geräuschvoll ... (大きい音を立てて) / Schlag (一打・打音) / plötzliche Bewegung (急な動き)

これらの表示は、音や様態そのものではなく、「音を出す」「速く動く」というように、事実を音や様子から切り離して描写していると考えられる。例えば、„Duden“でオノマトペとされる johlen (joと叫ぶ) は、„Wahrig“では、„laut rufen (大声で叫ぶ・鳴く)“と記載されているが、これは「大声で叫ぶその音」を、そのまま模写している表現ではなく、「大声で叫ぶ」という事実を客観的に説明しているに過ぎない。同様に、„Duden“でオノマトペとされる schwupp (さっ、ぴよん、ぴしっ) は、„Wahrig“では、„plötzliche Bewegung (急な動き)“と記載されている。これも「急な動き」そのものを、例えば「さっ」という表現のように、音として具体的に模写しているのではなく、「急な動き」のひとつとして、客観的に捉えているに過ぎない。しかし、どこからどこ

<sup>10</sup> 例：kakeln (鶏などがコッココ鳴く)の関連語gackern (同意義)がオノマトペ („Wahrig“)であるような場合。

<sup>11</sup> 例：munkeln (ひそかに噂をする)の関連語であるmurmeln (ぶつぶつ言う)の同系語murren (同意義)がオノマトペ („DW“)であるような場合。

までがオノマトペであるのか、というその境界線は曖昧である。それが、この辞典の記述の揺れに表れているのである。次節では辞典上の記載と、そこから見えてくる子音や品詞の特徴を扱う。

## 2-2. „Duden“のオノマトペとその音韻・品詞・意味の特徴

この節では、オノマトペの品詞、音韻、そして意味の特徴を分析していく。まず„Duden“にあるオノマトペを品詞ごとに分類した結果、動詞264語、名詞163語、間投詞100語、形容詞10語、副詞4語となり、ドイツ語全オノマトペ数541語のうち、動詞が最も多いことが分かる。次にオノマトペ541語の子音を、綴りと発音で分類し統計をとった。この表は資料1として巻末に添付するが、表からドイツ語のオノマトペ541語の子音は、[n], [r], [k], [l], [p]...の順に多いこと、また調音法<sup>12</sup>ではとくに、鼻音 ([m] [n] [ŋ]など)と破裂音 ([p] [k] [t]など)が多いことが明らかとなる。その要因を考察するため、まず動詞のオノマトペの語尾に着目する。„Duden“にあるドイツ語の全動詞10192語の中で-ern, -elnで終わるものと、オノマトペの動詞264語の中で-ern, -elnで終わるもの、それぞれの割合を算出したものが、次の表2である。

表2：ドイツ語の動詞の語尾

| 動詞全体<br>(10192語)   | -ern<br>1476語<br>15% | -eln<br>1533語<br>15% | その他<br>7183語<br>70% |
|--------------------|----------------------|----------------------|---------------------|
| オノマトペの動詞<br>(264語) | -ern<br>51語<br>20%   | -eln<br>48語<br>18%   | その他<br>165語<br>62%  |

表2から-ern, -elnを語尾に持つ動詞の割合は、ドイツ語の動詞全体と比較すると、オノマトペの動詞でやや高いことが分かる。-ern, -elnで終わる動詞は「運動や音の反復を表す動詞」(国松編(2000) P. 651/700)とあるように、少なくともオノマトペの動詞の38% (20%+18%)が、この「運動や音の反復を表す動詞」であると言える。またここから、オノマトペでは動詞の語尾子音[n]だけではなく、[r]と[l]の使用頻度が高くなる傾向を示しているといえる。

次に、破裂音[p]と[k]に着目する。ドイツ語のオノマトペの表<sup>13</sup>を見ていくと、kl-, kn-, pl-, schn-で始まる語が多い。それぞれの語数は、順に41語、29語、17語、21語である。英語のオノマトペに関して次のような記述がある。「英語には、本来形態素として分析されていないにもか

<sup>12</sup> 摩擦音、破裂音、鼻音、破擦音など。

<sup>13</sup> 2-1. で割愛した表。

かわらず、何らかの意味を持つと考えられている音列がある、例えば語頭sn-という音の連なりには、鼻に関する多くの英単語に使われている」(ジョーデン. (1992) P. 119)。その例として以下のものが挙げられている。「snore (いびきをかく)、sneer (鼻であしらう)、snoop (うろうろ鼻をつっこんでのぞきまわる)、snub (鼻であしらう)、snob (へつらい、つんけんしている人)、snooty (うぬぼれた)、sneeze (くしゃみをする)、sniff (くんくんかぐ、鼻であしらう)」(同書)。また、他にも音による単語の分類がなされている。「gl-は光に関連のある単語に使われる。例：glistter, glimmer (中略)。-ashは急激な、あるいは激しい動作の表現に使われる。例：dash, clash, flash, mash (中略)」(同書P. 120)。これを参考にし、ドイツ語のオノマトペで使用頻度の高いkl-, kn-, pl-, schn-を語頭に持つ語を分類し、意味の共通点を分析したものが次の表3である。

表3：使用頻度の高い子音とその単語の共通点

| 使用頻度の高い子音とその子音から始まるオノマトペの例  | 単語に見られる共通点          |
|---|---------------------|
| kl- (例：klacken, klapp, klatschen, klick, klimpern, klitsch, klopfen など) | 物が軽くぶつかる・触れあう       |
| kn- (例：knatschen, knicken, knips, knuffen など)                           | 硬い物が折れる・壊れる、手で何かをする |
| pl- (例：planschen, plappern, platsch, plitz, plumps など)                  | 水分が飛ぶ・はねる、急激な変化     |
| schn- (例：schnarchen, schnattern, schnauben, schnäuzen など)               | 口・鼻・息に関するもの         |

音声と意味とは「恣意的な関係にあるとはいえ、たとえば、ある語から[カ]と[マ]だけを切り出して、固い感じがするもの、柔らかい感じがするものはどちらか、と聞かれれば、[カ]が固く[マ]が柔らかいということで意見が一致するに違いない。(中略) 音声と意味とがある程度必然的に結びついた語のあることが知られる。それが、擬音語とか擬態語などとも呼ばれているオノマトペである」(湯澤 (2004) P. 4-5) という。また、「オノマトペを用いると表現が生き生きしてくる。それは音声そのものが運んでくる音の響きの効果によるものである」(同書) ことから、あるものごとを「生き生きと表現する」ために、「ある音の響き (オノマトペ)」が用いられていると考えられる。つまり、上の表3にまとめた「使用頻度の高い子音」と「その子音が使われている単語の意味の共通性」は、例えばkl-では、「物が軽くぶつかる・触れあう」といった意味を「生き生きと表現するために用いられている音」とすることができる。つまりkl-自体に意味が

あるのではなく、これは「音の響き」であり、これを用いてある事実が表現されていることになる。すなわちkl-で始まるオノマトペが多いということは、「物が軽くぶつかる、触れあう」という意味内容のオノマトペがドイツ語に多いと考えられる。一例として「不満を言う」という表現方法について考えてみる。まず「不満を言う」という事実があり、それをより「生き生きと表現する」ために、ある「音の響き」が選ばれ、用いられているとすれば、この「不満を言う」という意味内容を表すため、日本語では「ぶつぶつ」、「ぶーぶー」などの「音の響き」が用いられている。日本語の場合、この「音の響き」とはすなわちオノマトペのことである。一方、ドイツ語で「不平を言う」という表現としてbrummen, murren, murmeln, nörgeln<sup>14</sup>などが該当するが、「音の響き」がこの中のどの部分を指すのかを考えた場合、次のような問題が生ずる。まずドイツ語では、ひとつの語全体がオノマトペであり、「音の響き」はその中の一部であるため、「音の響き」すなわちオノマトペ、とはならない。次にこの「不満を言う」という意味内容を表す「音の響き」が、具体的にどれに当たるのかが定かでない。仮に-mm-, -rr-, -lnあるいはmmr-かnör-に該当するとした場合、例えばbammeln（ぶらぶら揺れる）という語にも-mm-が用いられており、これは「不満を言う」ことに関係せず、同様にgirren（ハトがクークー鳴く）という語にも-rr-が見られるが、これも不満に関係しない。このようにドイツ語のオノマトペは、日本語のオノマトペのように、ある具体的な事実、場面、状況に応じて「ある音の響き」が選ばれるのではなく<sup>15</sup>、表3でkl-, kn-, pl-, schn-で始まる語の特徴をまとめたように、「音の響き」が、～に関するもの、～な動き、～の様子、反復を表す、といった大きな分類ごとに選ばれている、と考えられる。

次章では、ドイツ語と日本語のオノマトペ表現とそれぞれの翻訳の具体例を集め、さらに比較考察を進める。

### 3. 文学作品に見るオノマトペ 一日独表現比較

#### 3-1. 日本文学のオノマトペとそのドイツ語訳

ここではまず、日本の文学作品に現れたオノマトペが、ドイツ語ではどのような表現で翻訳されているのかを観察し、両言語におけるオノマトペの表現法に差異があるのか、あるとすればいかなる差異であるのかを考察していく。まずは村上春樹（1992）『羊をめぐる冒険』と、宮沢賢治（1997）『いちょうの実』、同じく宮沢賢治（1991）『注文の多い料理店』の3作品の中から、オノマトペを用いた表現を抽出し、それぞれのドイツ語版での表現を比較検討した。抜粋したオノマトペ表現は、資料2として巻末に添付する。

<sup>14</sup> 4語すべて、„Duden“でオノマトペとして記載されている語である。

<sup>15</sup> 日本語のオノマトペ「べたべた」と「べとべと」を例に挙げると、どちらも粘り気があり、くっつく感じであるが、例えば「シャツが～」はどちらにも使えるが、「恋人と～する」には「べとべと」は用いられない。このように日本語のオノマトペでは、ドイツ語のそれにくらべ、「音の響き」ひとつひとつの用いられ方が、場面や状況ごとに細かく分けられているのである。

まず、日本語のオノマトペがドイツ語でオノマトペになっているもの、そうでないものに分類した。日本語のオノマトペがドイツ語でもオノマトペに訳されているものは、擬音語であり、オノマトペに訳されていないものは、擬音語でないものが多いことが分かる。

例：がさがさ 鳴る（擬音語）→

**rauschen**（「ザワザワという音を立てる」：オノマトペ）

どう と吹く（擬音語）→

**hui!** wehen（「ヒュー、サーッと吹く」：オノマトペ）

ぴかぴか する 鉄砲で（擬態語）→

mit **blitzenden** Gewehren（「キラリ、ピカリと光っている鉄砲で」：オノマトペではない）

くるくる まわる（擬態語）→

um sich selbst **drehen**（「自分の周りを回る」：オノマトペではない）

しかし、例外もいくつか見られるため、次にその例外に着目し、その原因を検討する。まず、例外を以下に挙げる。次の4例は日本語では擬音語であるにもかかわらず、オノマトペとしてドイツ語に訳されていないものである。以下、擬音語を **音**、非擬音語<sup>16</sup>を **非音** と表記する。

- 1) **音** ペタペタ あるく → 該当表現なし
- 2) **音** ばちん と 錠をかける → 該当表現なし
- 3) **音** ふっふっ とわらって → **非音** **hämis**ch lachen（意地悪く笑う）
- 4) **音** ばたばた という音を立てて → **非音** **flatternd**（羽を動かしながら）

1) と 2) に関してはそれに該当する語がないので、3) と 4) に関してのみ考察する。「ふっふっ」も「ばたばた」も音であるが、「ふっふっ」はここではhämis（意地悪く）という非擬音語、つまり様態を表す語に置き換えられている。また「ばたばた」もここではflatternd（羽を動かす）という非擬音語である様態を表す語に置き換えられている。その理由として、これらはドイツ語に該当するオノマトペがないため、これらの語で訳していると考えられる。

次の3例は、日本語のオノマトペがドイツ語でもオノマトペとして訳されているものであるが、元の日本語は擬態語であるのに、そのドイツ語訳は擬音語となっている例である。

- 1) **非音** 空気が ピリピリ している →  
**音** **Es knistert.**（パリパリ、パチパチと音を立てる。）
- 2) **非音** あの ピリピリ とした空気 →  
**音** **das Knistern**（パリパリ、パチパチと音を立てるもの）
- 3) **非音** 目の奥が ちくちく と痛む →  
**音** jm. die Augen **pochen**（コツコツ叩く）

<sup>16</sup> 非擬音語とは、「擬音語でない語」のことであり、擬態語や、オノマトペではない表現も指す。

「空気がピリピリする」というのは、音がするわけではない。また、「ちくちく痛む」も同じであり、音はしない。ではなぜ擬態語の日本語が、ドイツ語では擬音語になっているのだろうか。ここでもう一度、1-2.にある「共感覚」に戻る。1-2.の注の例では、「色を聴く」あるいは「音を見る」といったものが挙がっていた。つまり、視覚で捉えたものを音として表現する、聴覚で捉えたものを様態として表現する、ということである。この例の「ちくちく」では、「ちくちく」という触覚を表す擬態語が、ドイツ語ではpochenという聴覚的な擬音語表現に転用されていると考えられる。また、先項に挙げた4例の中の「ばたばた」という表現を山口編(2003)で見ると、次のような記載になっている。「1. 面と面が繰り返し激しく当たる音、またその様子。2. 布や板等の平板なものが大きくあおられる音、またその様子。3. 腕・脚を大きく振り動かす様子。もがいて暴れる感じ。4. 次々と倒れる様子。5. 手早く次々と物事が処理、始末される様子。6. 忙しくて少し混乱している様子」(山口編(2003) P.382)。このことから、「ばたばた」とは、音だけでなく様子も表していることが分かる。「ばたばた」に相当、あるいは近いドイツ語表現flatternを国松編(2000)で見ると、「羽ばたきをする、羽を動かして飛ぶ。チョウが花から花へひらひら飛ぶ。鳥が落ち着きなくかごの中をバタバタ飛び回っていた。」(同書 P.789)とある。こちらは音というより、様子・様態に焦点が当てられている。

以上のように、ある表現を別の語で表現する際、まず元の表現に該当するオノマトペが、別の語にはないという問題が起こりうる。これが先の4例に現れている。しかし、元の語の表現が別の語では違う捉え方をされる、あるいは違う方法で表現されるという問題もある。つまりここでは、ある事実が音として(聴覚で)捉えられ表現されているのか、それとも、音ではなく様態として(視覚で)捉えられ表現されているのかということである。同じ飛ぶ鳥を見て、「ばたばた」という音でそれを捉えるのか、それとも、「羽を動かして飛んでいる」という様態・事実でそれを捉えているのかという問題である。

### 3-2. ドイツ文学のオノマトペとその日本語訳

前節では、日本語のオノマトペがドイツ語訳でどう表現されているのかを、具体例に則して観察した。本節では、ドイツ語のオノマトペが日本語訳ではどう表現されるのかを考察する。ドイツ語のオノマトペの例を、Erich Kästner(2002) „Das doppelte Lottchen“と、Michael Ende(2000) „Momo“の2作品の中から文で抜き出し、それぞれ日本語版での表現と比較した。抜粋したオノマトペ表現を資料3として巻末に添付する。

日本語のオノマトペの数の約4分の1であるドイツ語のオノマトペが、日本語に翻訳される際、オノマトペは増えるであろうと予想されたのだが、逆に減少している。その理由としてまず考えられるのは、ドイツ語が日本語に翻訳される際、その語がオノマトペであるという認識が翻訳者にはないのではないかという要因である。日本語のオノマトペは、他の単語との区別がつきやすい。

「擬音語・擬態語の音節は、他の単語に見られない一定の限られたパターンに従って、組み合わせられている（～っ、～り、～ん、の音節で終わる形、および重複が最も一般的な形）」（ジョーデン、(1992) P. 114）とあるが、ドイツ語のオノマトペはそうではない。英語のオノマトペに関する資料に「擬音語あるいは擬態語の要素が動詞の中に組み込まれ、溶け込んでいて、それを分離して取り出すのは難しい。」（松田（1989）P. 118）とあるが、ドイツ語のオノマトペの動詞もこれと同様であろう。murmeln（ぶつぶつ言う）を例に取る。これを独和辞典では、「ぶつぶつ言う、（小川などが）さらさら・ざわざわ音をたてる」（国松編（2000）P. 1575）と訳される。一方、„Duden“（2005）では„mit gedämpfter Stimme [in tiefer Tonlage], meist nicht sehr deutlich etw. sagen, was oft nicht für andere bestimmt ist“（弱めた声（低音）で、大抵はあまりはっきりものを言わず、また往々にして他者に向けられて発話しない）とある。独和辞典では「ぶつぶつ、さらさら、ざわざわ」といった擬音を用いているのに対し、独和辞典では擬音は用いず、客観的に意味を述べているだけである。また日本語では「ぶつぶつ」がオノマトペであり、それが「言う」という動詞とともに用いられているが、ドイツ語では日本語で言うところの「ぶつぶつ」という擬音部分と、動詞「言う」との2つが結合して、murmelnというひとつのオノマトペの動詞が成立しているのである<sup>17</sup>。

以上のことから次のことが推論される。日本語のオノマトペがドイツ語に翻訳される際、まず翻訳者側に、「オノマトペを翻訳する」という意識が働く。そのため翻訳者はドイツ語でも、その語に該当するオノマトペを用いようとする。しかし日本語の方がオノマトペの数が多いため、ドイツ語に訳される際、それに該当するオノマトペが見つからない可能性がある。一方、ドイツ語のオノマトペが日本語に訳される場合は、まず翻訳者側にオノマトペの意識が働きにくい。なぜならば上述のように、元のドイツ語のオノマトペの語中に、「音の模写性」<sup>18</sup>が溶け込んでしまっているからである。しかし、資料3からも明らかのように、あえてオノマトペを用いなくとも日本語への翻訳は可能である（例：murmeln → つぶやく）。また、オノマトペを用いない方がむしろ「元の語により近い訳」になるとも解釈できる。つまり、音を際立たせた「日本語化した訳」ではなく、音を溶け込ませた「ドイツ語らしい訳」になる、ということである。ここでもうひとつオノマトペの現れ方で考慮しなければならないのは、作品の読者対象との関係である。Michael Ende „Momo“には„Jugendliteratur（青少年向け文学）<sup>19</sup>“の記述があり、Erich Kästner „Das doppelte Lottchen“には„Ein Roman für Kinder（児童用小説）<sup>20</sup>“とあるように、それぞれ対象としている読者層が異なっていることに留意する必要がある。オノマトペと同じ範疇の語として

<sup>17</sup> 例：zwischen（擬音語動詞）→しゅうしゅう音をたてる（擬音語副詞＋名詞＋格助詞＋動詞）  
platzen（擬音語動詞）→ばちんとはじける（擬音語副詞＋格助詞＋動詞）

<sup>18</sup> ある動き、音、状態ある音によって生き生きと表現する性質。オノマトペの役割とも言える。

<sup>19</sup> 「14～20歳くらい」を対象とする。„<http://de.wikipedia.org/wiki/Jugend>“参照。

<sup>20</sup> 「14歳未満くらい」を対象とする。„<http://de.wikipedia.org/wiki/Kind>“参照。

Kindersprache (小児語)があったが、オノマトペは新聞などの書き言葉よりも、子ども言葉、話し言葉の中により多く見られる。つまり、後者の作品にオノマトペが多い要因のひとつとして、読者の年齢が前者の作品よりも低いためであると考えられる。

#### 4. ドイツ語のオノマトペの変遷

ドイツ語のオノマトペの数は、日本のその4分の1であるということは先にふれた。本論のオノマトペの指標として用いた2005年版の„Duden 10 Bände auf CD-Rom“上には、541語のオノマトペがある。一方、1854年から1960年にかけて刊行された、グリム辞典のCD-Rom版である„Deutsches Wörterbuch von Jacob und Wilhelm Grimm (Erstbearbeitung) auf CD-Rom“には103語のオノマトペしかない。つまり、18, 19世紀に比べ、ドイツ語のオノマトペは約5倍に増えたのである。「Otto Jespersenは、1992年『言語—その本質・発達及び起源』(Language, its Nature, Development and Origin)を著し(中略)『すべての国語において擬音的かつ象徴的な語を創造し使用することは(中略)、実際に前代より近年の口語において一層しばしば用いられる』とみている」(佐藤(1972) P. 69)、また、「オノマトペは、間投詞から派生的に名詞をつくったり、動詞の母音交替などによって更に新たな表現を獲得したり、活発な活動を示している」(同書 P. 100)とある。このようにオノマトペは増加しており、近年のコミックの普及<sup>21</sup>もその増加にさらに拍車をかけている。またドイツ語のオノマトペは、GrimmやGoethe<sup>22</sup>作品に多く見られる。

#### 5. おわりに

ドイツ語と日本語それぞれのオノマトペの間の翻訳に生ずる非オノマトペ化、つまりオノマトペでない表現への翻訳の原因としてまず考えられるのは、ドイツ語のオノマトペの数が、日本語のオノマトペの4分の1であるという事実である。さらには、ドイツ語のオノマトペの構造上の特徴、つまり「音の響き」が語全体に溶け込み、ひとつのオノマトペを形成しているという特徴と、意味上の特徴、すなわちある「音の響き」の意味する内容が日本語のそれと比べ、より抽象的で、意味する範囲も広い、という特徴とも関係している。ドイツ語の各種辞典によるオノマトペの記載の揺れの原因は、ここにもあると考えられる。しかし、ドイツ語のオノマトペは「オノマトペ性」が低い、ということにはならない。1章で、オノマトペという語の元々の意味は「言葉をつくること」とあった。日本のオノマトペは、他の語から際立つ形、例えば「ベチャベチャとしゃべる」というふうに「言葉がつくられ」るが、ドイツ語のオノマトペは他の語から確立することなく、„quatschen“ (長々とくだらない話をする)というふうに「音の模写性」を際立たせ

<sup>21</sup> 「ドイツ最大手のコミック出版社であるカールセン社を例にとってみると、マンガ・ブームが始まった1996年から2002年にかけて、マンガの出版数は、約50万部から約2000万部へと激増し、40倍にもなっている。」(細川(2005) P. 133)

<sup>22</sup> „Frau Holle (ホレおばさん)“, „Der Froschkönig (蛙の王様)“, „Die Bremerstadtmusikanten“ (ブレーメンの音楽隊)(Grimm), „Faust (ファウスト)“ (Goethe) などが挙げられている。参考。(佐藤(1972))

ず、溶け込ませる形で「言葉がつくれ」たのである。これが日本語とドイツ語それぞれの「オノマトペ性」である。また現在、ドイツ語の「オノマトペ性」に変化が起きている。「音の模写性」の前景化である。それは、とりわけコミックに見られる現象ではあるが、詩の中にも見られる。これは「音の模写性」の際立った、オノマトペに近い表現である。その一例としてここに、Ernst Jandlの詩の一部とその試訳を掲示する。

|                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
|                       | ottos mops (1963年) |
| ottos mops trotzt     | オットーの犬が逆らう         |
| otto: fort mops fort  | オットー：出て行け 犬よ出て行け   |
| ottos mops hopst fort | オットーの犬が飛び跳ねて出て行く   |
| otto: soso            | オットー：ふふん、なるほど      |

(中略)

(Ernst Jandl (1985) P. 422)

オノマトペは「感覚に訴える」(湯澤 (2004) P. 5) もの、「知的言語活動よりもむしろ情的言語活動に奉仕する。また詩的效果を高める」(下宮 (2001) P. 49) とされる。この「詩的效果」とは何であろうか。「詩的言語には、主要な意味コードと並行して存在する特別なコード、たとえばリズムによる言表の組織化、音による言表の仕上げ (中略) といったものがいろいろと含まれている」(ガリペリン. (1978) P. 48)。この「リズムと音の言表」が、上のErnst Jandlの詩に見られるものである。これもまた「音の模写性」つまり「音の響き」の前景化であり、オノマトペと共通の機能であると言えよう。今後、詩的言語も含め、このような「音の模写性」がどう変遷し発展してゆくのか、興味深い問題である。

一次文献：

- エンデ, ミヒャエル (大島かおり訳) (1996) : 『モモ』 岩波書店.  
 ケストナー, エーリヒ (高橋健二訳) (1992) : 『ふたりのロッセ』 岩波書店.  
 宮沢賢治 (1991) : 『宮沢賢治全集 8』 (注文の多い料理店) 筑摩書房.  
 宮沢賢治 (1997) : 『ふた子の星 宮沢賢治童話全集 2』 (いちょうの実) 岩崎書店.  
 村上春樹 (1992) : 『羊をめぐる冒険 上』 講談社.  
 Ende, Michael (2002) : „Momo“ Hamburg: Omnibus Taschenbuchverlag.  
 Kästner, Erich (2002) : „Das doppelte Lottchen“ Hamburg: Cecile Dressler Verlag.  
 Jandl, Ernst (1985) : „Gesammelte Werke. 4 Bde. Erster Band“ Darmstadt : Hermann Luchterhand Verlag.  
 Miyazawa, Kenji (Herausgegeben und übersetzt von Johanna Fischer) (1994): “Die Früchte des Ginkgo“ Stuttgart: Verlag Günter Neske.  
 Murakami, Haruki (Aus dem Japanischen übertragen von Annelie Ortmanns-Suzuki und Jürgen Stalph) (1991) : „Wilde Schafsjagd“ Frankfurt am Main: Insel Verlag.

二次文献：

- 浅野鶴子編 (1981)：『擬音語・擬態語辞典』角川書店。
- 飯島英一 (2004)：『日本の猫は副詞で鳴く、イギリスの猫は動詞で鳴く』朱鳥社。
- 乙政潤 (2002)：(オノマトペによって表されるもの一日独対照)『会誌12』阪神ドイツ語学研究会。
- ガリペリン, I. R. (磯谷孝訳) (1978)：『詩的言語学入門－言葉の意味と情報性－』研究社。
- 川島淳夫編 (1994)：『ドイツ語言語学辞典』紀伊國屋書店。
- 国松孝二編 (2000)：『独和大辞典』小学館。
- 佐藤洋子 (1972)：(ドイツ語オノマトペについて)『早稲田大学語学研究所紀要10号』早稲田大学語学研究所。
- 下宮忠雄 (2001)：『ヨーロッパ諸語の類型論』(学習院大学研究叢書；33 学習院大学。
- ジョーデン, エリノアH (1992)：「擬声語・擬態語と英語」(國廣哲彌編)『日英語比較講座 第4巻 発想と表現』大修館書店。
- 鈴木孝夫 (1999)：『日本語と外国語』岩波書店。
- 田守育啓 / ローレンス・スコウラップ (1999)：『オノマトペー形態と意味－』くろしお出版。
- 田守育啓 (2003)：『オノマトペ 擬音・擬態語をたのしむ』岩波書店。
- 根本道也編 (2005)：『新アポロン独和辞典』同学社。
- 飛田良文他 (2002)：『現代擬音語擬態語用法辞典』東京堂出版。
- 文化庁編 (1979)：『日本語の特色』大蔵省印刷部。
- 細川裕史 (2005)：「マンガの翻訳方法をめぐって－日本語オノマトペのドイツ語訳」(杉谷眞佐子編)『ドイツ語が織りなす社会と文化』関西大学出版部。
- 松崎寛他 (1998)：『よくわかる音声』アルク。
- 松田徳一郎 (1989)：「英語と日本語の擬音語・擬態語」『日本語教育68号』日本語教育学会。
- 山口仲美編 (2003)：『暮らしのことば 擬音・擬態語辞典』講談社。
- 湯澤質幸他 (2004)：『音声・音韻探求法－日本語音声へのいざない』朝倉書店。
- „Deutsches Wörterbuch“ (1992) Tübingen: Max Niemeyer Verlag.
- “Deutsches Wörterbuch von Jacob und Wilhelm Grimm (Erstbearbeitung) auf CD-Rom“ (2004) Frankfurt am Main : Zweitausendeins.
- “Duden 10 Bände auf CD-Rom “(2005) Mannheim/Leipzig/Wien/Zürich : Dudenverlag.
- „Duden Band 4 Die Grammatik“ (2005) Mannheim/Leipzig/Wien/Zürich : Dudenverlag.
- „Duden Band 7 Herkunftswörterbuch“ (1989) Mannheim/Leipzig/Wien/Zürich : Dudenverlag.
- Havlik, Ernst J. (1981) : „Lexikon der Onomatopöien - Die lautimitierenden Wörter im Comic-, : Frankfurt/Main : Verlag Dieter Fricke GmbH.
- „Wahrig Deutsches Wörterbuch“ (1997) Gütersloh: Bertelsmann Lexikon Verlag.
- „Wikipedia“ <http://de.wikipedia.org/wiki/>

(研究紀要編集部は、編集発行規程第5条に基づき、本原稿の査読を論文審査委員会に依頼し、本原稿を本誌に掲載可とする判定を受理する、2006年10月31日付)。

## Konsonanten der deutschen Onomatopöie ドイツ語のオノマトペ541語の子音分類 資料1

## 破裂音(閉鎖音)

| 発音<br>綴り | [b] |    | [p] |     |    | [d] |    | [t] |    |    | [g] |    | g |    |
|----------|-----|----|-----|-----|----|-----|----|-----|----|----|-----|----|---|----|
|          | b   | bb | b   | p   | pp | d   | dd | d   | t  | dt | tt  | g  |   | gg |
| Aで始まる語   |     |    | 1   | 1   |    |     |    |     |    |    |     |    |   |    |
| B-       | 41  | 3  |     |     |    |     |    | 2   |    |    |     |    | 4 |    |
| D-       |     |    |     |     |    | 24  | 1  |     | 2  |    |     |    | 1 |    |
| E-       |     |    |     | 2   |    |     |    |     |    |    |     |    |   |    |
| F-       | 1   |    |     | 5   | 2  | 1   |    |     | 2  |    | 1   |    |   |    |
| G-       |     |    |     |     |    |     |    |     | 2  |    |     | 38 | 2 |    |
| H-       |     |    |     | 4   |    | 1   |    | 1   | 2  |    |     |    |   |    |
| I-       |     |    |     |     |    |     |    |     |    |    |     |    |   |    |
| J-       | 1   |    |     |     |    |     |    |     |    |    |     |    | 1 |    |
| K-       | 2   | 1  |     | 10  | 9  | 3   | 2  |     | 10 |    | 6   | 11 |   |    |
| L-       |     |    |     |     |    |     |    |     | 1  |    |     |    |   |    |
| M-       |     |    |     |     |    |     |    |     |    |    |     |    |   |    |
| N-       |     |    |     |     |    |     |    |     |    |    |     |    | 2 |    |
| P-       |     |    |     | 73  | 2  | 3   | 1  |     | 2  |    |     |    |   |    |
| Q-       |     | 1  |     |     |    |     |    |     |    |    |     |    |   |    |
| R-       | 4   |    | 1   | 5   | 1  | 3   |    |     |    |    | 1   |    |   |    |
| S-       | 2   | 1  |     | 4   | 12 | 1   | 3  |     | 4  |    | 3   | 1  |   |    |
| T-       | 6   |    |     | 1   | 7  |     |    |     | 66 |    | 1   | 1  |   |    |
| U-       |     |    |     |     |    |     |    |     |    |    |     |    |   |    |
| V-       | 1   |    |     |     |    |     |    |     |    |    |     |    |   |    |
| W-       |     |    |     | 2   |    |     |    |     | 1  |    |     |    |   |    |
| Z-       |     |    |     | 4   | 2  |     |    |     |    |    |     |    |   |    |
| 綴り別の合計   | 58  | 6  | 2   | 111 | 35 | 38  | 7  | 1   | 92 | 0  | 12  | 59 | 2 | 0  |
| 発音別の合計   | 64  |    | 148 |     |    | 45  |    | 105 |    |    | 61  |    |   |    |

## 破裂音(閉鎖音)

## 摩擦音

| 発音<br>綴り | [k] |    | [kv] | [f] |    |   |    | [v] | [s] |   | [z] | [ʃp] | [sp] |    |  |
|----------|-----|----|------|-----|----|---|----|-----|-----|---|-----|------|------|----|--|
|          | k   | ck | qu   | f   | ff | v | ph | w   | s   | ß | ss  | s    | sp   | sp |  |
| Aで始まる語   |     |    |      |     |    |   |    |     |     |   |     |      |      |    |  |
| B-       | 2   |    |      | 1   | 4  |   |    |     | 1   |   | 2   | 1    |      |    |  |
| D-       |     |    |      |     |    |   |    |     |     |   | 1   |      |      |    |  |
| E-       |     |    |      |     |    |   |    |     |     |   |     |      |      |    |  |
| F-       | 1   | 2  |      | 31  |    |   |    | 1   | 3   |   | 1   |      |      | 2  |  |
| G-       | 1   | 14 |      |     |    |   |    | 1   | 2   | 1 |     | 2    |      |    |  |
| H-       | 1   | 2  |      |     |    |   |    |     |     |   | 1   |      |      |    |  |
| I-       |     |    |      |     |    |   |    |     |     |   |     |      |      |    |  |
| J-       | 1   |    |      |     |    |   |    |     |     |   |     |      |      |    |  |
| K-       | 132 | 20 |      | 2   | 3  |   |    |     | 10  | 1 | 2   |      |      | 4  |  |
| L-       |     |    |      |     |    |   |    |     |     |   |     |      |      | 1  |  |
| M-       | 1   | 4  |      |     |    |   |    | 1   | 1   |   |     |      |      |    |  |
| N-       |     |    |      |     |    |   |    |     | 1   |   |     |      |      |    |  |
| P-       | 8   | 1  |      |     |    |   |    |     |     |   |     |      |      | 1  |  |
| Q-       | 6   |    | 12   |     |    |   |    |     | 1   |   |     |      |      |    |  |
| R-       |     | 5  |      | 2   |    |   |    |     | 6   |   |     |      |      |    |  |
| S-       |     | 7  | 1    | 5   | 1  |   | 1  | 11  | 10  |   | 1   | 9    | 5    |    |  |
| T-       | 4   | 10 |      | 1   | 1  |   |    |     |     |   |     |      |      |    |  |
| U-       | 1   |    |      |     |    |   |    |     |     |   |     |      |      |    |  |
| V-       |     |    |      |     | 1  |   |    |     |     |   |     |      |      |    |  |
| W-       |     |    |      | 1   |    |   |    | 17  |     |   |     | 1    |      | 2  |  |
| Z-       |     | 2  |      |     |    |   |    | 1   |     |   | 1   | 1    |      |    |  |
| 綴り別の合計   | 158 | 69 | 13   | 43  | 10 | 0 | 1  | 32  | 35  | 2 | 9   | 14   | 5    | 10 |  |
| 発音別の合計   | 227 |    | 13   | 54  |    |   |    | 32  | 46  |   | 14  | 5    | 10   |    |  |

| 発音<br>綴り | 摩擦音  |      |     |     |     |     | 側音  |     |     |     | ふるえ音 |     | 鼻音  |    |
|----------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|----|
|          | [ʃt] | [st] | [ʃ] | [x] | [ç] | [j] | [h] | [:] | [l] | [l] | [r]  | [r] | [m] |    |
|          | st   | st   | sch | ch  | g   | ch  | j   | h   | h   | l   | ll   | r   | rr  | m  |
| Aで始まる語   |      |      |     |     |     |     |     |     |     |     |      | 1   |     |    |
| B-       |      |      |     |     |     |     |     |     | 1   | 17  | 3    | 11  |     | 5  |
| D-       |      |      | 2   |     |     |     |     |     | 2   | 6   |      | 7   |     | 3  |
| E-       |      |      |     |     |     |     |     |     |     |     |      |     |     |    |
| F-       |      | 1    | 2   | 1   |     |     |     |     |     | 13  |      | 10  |     | 1  |
| G-       |      |      | 1   | 1   |     |     |     |     | 1   | 11  | 2    | 15  | 2   | 1  |
| H-       |      | 1    | 3   | 1   |     | 1   |     | 17  | 2   | 5   |      | 5   |     | 1  |
| I-       |      |      |     |     |     |     |     |     | 1   |     |      |     |     |    |
| J-       |      |      |     |     |     |     | 6   |     | 1   | 3   |      | 3   |     |    |
| K-       |      | 3    | 2   | 2   |     | 3   | 1   |     | 3   | 54  | 1    | 40  | 6   | 6  |
| L-       |      |      |     | 1   |     |     |     |     |     | 8   | 2    | 1   |     | 1  |
| M-       |      |      |     |     |     |     |     |     | 3   | 5   |      | 2   | 1   | 20 |
| N-       |      |      | 2   |     |     |     |     |     |     | 5   |      | 1   |     |    |
| P-       |      | 3    | 4   | 1   |     |     |     |     |     | 24  | 1    | 18  | 1   | 6  |
| Q-       |      |      |     |     |     |     |     |     |     | 1   |      |     | 2   |    |
| R-       |      |      | 2   | 1   |     | 1   |     |     | 1   | 7   |      | 39  |     | 3  |
| S-       | 2    | 1    | 50  |     |     | 4   |     |     |     | 15  | 4    | 22  | 5   | 4  |
| T-       |      |      | 2   |     |     |     |     |     |     | 10  | 4    | 28  |     | 9  |
| U-       |      |      |     |     |     |     |     |     | 1   | 1   |      |     |     |    |
| V-       |      |      |     |     |     |     |     |     |     | 2   |      | 1   |     |    |
| W-       |      |      | 2   | 1   |     |     |     | 1   | 1   | 6   |      | 3   | 1   |    |
| Z-       |      |      | 1   |     | 1   | 2   |     |     |     | 3   | 1    | 3   |     |    |
| 綴り別の合計   | 2    | 9    | 73  | 9   | 1   | 11  | 7   | 18  | 17  | 196 | 18   | 210 | 18  | 60 |
| 発音別の合計   | 2    | 9    | 73  | 9   |     | 12  | 7   | 18  | 17  |     | 214  |     | 228 | 82 |

| 発音<br>綴り | 鼻音 |     |     |      |      |    | 破擦音  |      |      |    |    |      |   |     |
|----------|----|-----|-----|------|------|----|------|------|------|----|----|------|---|-----|
|          | mm | [n] | [ŋ] | [ŋk] | [pf] |    | [ts] | [tʃ] | [ks] |    |    |      |   |     |
|          |    | N   | nn  | ng   | nk   | pf | ds   | ts   | tz   | z  | zz | tsch | x | chs |
| Aで始まる語   |    | 1   |     |      |      |    |      |      | 1    |    |    |      |   |     |
| B-       | 4  | 17  |     | 4    |      |    |      |      |      | 1  |    |      |   |     |
| D-       |    | 7   | 1   |      |      |    |      |      | 1    |    |    |      |   |     |
| E-       |    |     |     |      |      |    |      |      |      |    |    |      |   |     |
| F-       | 1  | 18  |     |      | 1    |    |      |      |      | 1  | 1  | 2    | 1 |     |
| G-       | 1  | 20  |     |      |      |    |      |      | 2    | 1  |    | 1    |   | 1   |
| H-       | 1  | 7   |     |      |      |    |      |      |      |    |    | 1    |   |     |
| I-       |    |     |     |      |      |    |      |      |      |    |    |      |   |     |
| J-       | 1  | 5   |     |      | 1    |    |      |      |      |    |    |      |   |     |
| K-       |    | 106 |     |      |      | 1  |      |      |      | 2  |    | 11   |   |     |
| L-       | 1  | 7   |     |      |      |    |      |      |      |    |    | 1    |   |     |
| M-       | 2  | 9   |     |      | 1    |    |      |      |      |    |    | 1    |   |     |
| N-       |    | 17  |     | 1    |      |    |      |      |      |    |    | 1    |   |     |
| P-       |    | 32  |     | 3    | 6    | 3  |      |      | 4    | 1  |    | 8    |   |     |
| Q-       |    | 9   |     |      |      |    |      |      |      |    |    | 3    |   |     |
| R-       | 2  | 15  |     |      |      |    |      |      | 5    | 1  |    | 4    |   |     |
| S-       | 6  | 66  |     | 5    |      |    |      |      | 4    | 4  | 1  |      |   |     |
| T-       | 1  | 21  |     | 5    |      |    |      | 2    | 1    | 1  |    | 6    |   |     |
| U-       |    |     |     |      |      |    |      |      |      |    |    |      |   |     |
| V-       |    | 1   |     |      |      |    |      |      |      |    |    |      |   |     |
| W-       | 2  | 7   |     |      |      | 1  |      |      | 1    |    |    | 2    |   |     |
| Z-       |    | 11  |     |      |      |    |      |      |      | 15 |    | 2    |   |     |
| 綴り別の合計   | 22 | 376 | 1   | 18   | 9    | 5  | 0    | 2    | 19   | 27 | 2  | 43   | 1 | 1   |
| 発音別の合計   |    |     | 377 | 18   | 9    | 5  |      |      | 50   |    |    | 43   |   | 2   |

## 日本語のオノマトペ→ドイツ語訳

資料2 「日本語→ドイツ語」

非オノマトペ＝オノマトペでない表現

太字＝日本語のオノマトペに相応すると思われる表現

\_\_\_＝日本語のオノマトペに相応するオノマトペ

×＝該当なし      音＝擬音語      非音＝非擬音語

網かけ＝擬音語が非擬音語に、あるいは、非擬音語が擬音語に訳されている例

## 1. 『注文の多い料理店』

オノマトペ → 非オノマトペすっかり・・・のかたちをして**ganz wie... ausgestattet**びかびか する鉄砲でmit **blitzenden** Gewehrenくるくる まわる**um sich selbst drehen**ずんずん 進む**weitergehen**きちん とするsich **richten**ぼうっ と かすんで無くなって、どうっ と 室の中に入ってくる。

×

びっくり する**erschrecken**音 ベタベタ あるく

×

音 ばちん と 錠をかける

×

すっかり 塗る**ganz**めいめい こっそり 食べる**jeder, ...heimlich** aufschleckenぎょっ とする**erstaunen**がたがた してmit **schlotternden** Knienきよろきよろ 2つの青い目玉がのぞいているzwei **rollende** grüne Augäpfel gerichtet seinこそこそ 言う**leise** sprechenくしゃくしゃ の 紙屑**zerknülltes** Papierぶるぶる ふるえて**zitternd**音 ふっふっ と わらう**hämis**ch lachenくるくる 廻って**herumlaufen**オノマトペ → オノマトペタンタアーン と やる**peng! peng!** drauflosschießenどたっ と 倒れる**plumps** umfallenどう と**hui!**

ざわざわ、と 鳴る  
かさかさ、と 鳴る  
ごんごん と 鳴る  
がたん と  
ばちゃばちゃ 振りかける  
がたがたがたがた、震えだし  
「わん、わん、ぐわあ。」  
うう と うなって  
「わん。」と 高く吠えて  
がたり と  
にゃあお、くわあ、ごろごろ。  
がさがさ 鳴る  
どう と 吹く  
ふう と うなって  
ざわざわ 分けて

rauschen  
rascheln  
knarren  
mit einem Krach  
sich panschen  
klappern  
„Wau, wau, waff!“  
knurrend  
„Wau!“ bellen  
mit lautem Krach  
„Miau, miau, rrrrrrrrh!“  
rauschen  
hui! wehen  
keuchend  
raschelnd

2. 『羊をめぐる冒険』

オノマトペ → 非オノマトペ

ゆっくり と読む  
ごてごて とした通り  
じっとり と湿る  
ひっそり とする  
すっかり 忘れる  
ぼったり 会った  
顔ぶれが すっかり 変わっていた  
ムツ とした 夜行列車  
はっきり と 覚えている  
ぐるぐる と歩きまわる  
音 ばたばた という音を立てて  
ゆっくり と引く  
ぼんやり として、  
背筋を しゃん と伸ばし  
冷やり とした鉄のドア  
しん とする  
ピクリ と動かない

langsam lesen  
ein wirres Gespinst  
×  
still  
total vergessen  
zufällig treffen  
ganz andere Leute da waren  
Ein Zug, in dem man kaum atmen kann  
sich genau erinnern  
immer wieder spazieren  
flatternd  
langsam ziehen  
unbrauchbar  
×  
die kühle Eisentür  
still sein  
sich kein bißchen bewegen

ゆっくり 膨らむ

たっぶり 置く

ゆっくり とした均一な動作で

ぼんやり とみつめる

冷やり

くしゃくしゃ になった煙草

ずっ と

ひらり と跳び乗る

そっ と載せる

**langsam** aufgehen

**voll** verstreichen lassen

in einer **langsamen** Bewegung

×

**kalt**

eine **zerdrückte** Zigarette

**die ganze Zeit**

**mit einem Satz** springen

**sacht** legen

オノマトペ → オノマトペ

非音 空気が ビリビリ している

かたかた という軋んだ音をたてて

非音 あの ビリビリ とした空気

シュウツ という音

かちん という

ばちばち という乾いた音をたてる

ふうっ と息を吐く

非音 目の奥が ちくちく と痛む

Es **knistert**.

**quietschend**

**das Knistern**

**das Zischen**

zu **klicken**

trocken **knistern**

**schnaufen**

jm. die Augen **pochen**

### 3. 『いちょうの実』

オノマトペ → 非オノマトペ

カチカチ の鋼

ドキッ とする

ばらばら にわかれて

「きっ と

めっちゃめっちゃ にこわす

すっかり 消える

ユラリユラリ と

**blanker** Stahl

**erschrecken**

voneinander **getrennt**

**sicher...**

**völlig** durcheinander bringen

**ganz** verloschen

**in schwingende** Bewegung

オノマトペ → オノマトペ

サラサラサラサラ 飛ぶ

ざわざわ する

ゴーッ と吹く

**sara-sara** fliegen

**rauschen**

**herüberbrausen**

ドイツ語のオノマトペ→日本語訳

資料3 「ドイツ語→日本語」

非オノマトペ=オノマトペでない表現

太字=ドイツ語のオノマトペに相応ずるとされる表現

\_\_\_ =ドイツ語のオノマトペに相応ずるオノマトペ

1. „Das doppelte Lottchen“

オノマトペ → 非オノマトペ

**klappern**

ぶつかりある音がする

**planschen**

水をはねかす

**kreischen**

かなきり声をあげる

**krähen**

かん高く笑う

**schreien**

さけぶ

**Klatschebasen**

おしゃべり屋さん

**Es klopft.**

ノックの音がする

**murmeln**

つぶやく

**flüstern**

ささやく

**lachen**

笑う

**tippen**

たたく

**maulend**

口をとがらしながら

**klappern**

ぶつかる音がする

オノマトペ → オノマトペ

**plappern** die kleinen Mäuler

小さい口が、ぺちやぺちややる

**schnatternde** Herde vollzählig in den Stall

ぺちやくちやとうるさい家畜のような群れ

**Es hupt!**

ブウツという音がする

2. „Momo“

オノマトペ → 非オノマトペ

ein Erinnerungsfoto **knipsten**

記念写真を1枚とる

**die Fußknöchel** (←Knöchel←オ: Knochen)

かかと

**seufzen**

ため息をつく

**lachen**

わらう

**murmeln**

口ごもりながら言う

オノマトペ → オノマトペ

なし